

令和5年度第1回清川村簡易水道事業運営協議会会議録

日 時 令和5年7月27日（木）午前10時00分～午前10時50分
場 所 清川村役場庁舎3階 第2・3会議室
出席者 簡易水道事業運営協議会委員7名
まちづくり課職員4名

1 開 会

2 あいさつ

【村長あいさつ】

～村長退席～

【職員及び委員紹介】

- ・ 本日の出席委員は、委員7名中、全員の出席となっており、協議会規則第5条第2項の規定により、会議は成立することを報告した。

3 案 件

(1) 会長・副会長の選出について

- ・ 事務局から会長、副会長の選出に当たって、協議会規則第4条第1項の規定に基づき、委員の互選により選出を依頼したところ、委員から事務局一任の意見が出され、事務局案により、会長に山本善男委員、副会長に山本雅彦委員の選出が決定した。

【会長あいさつ】

- ・ この後の進行については、協議会規則第4条第2項の規定により、会長が行う。

(2) 令和4年度清川村簡易水道事業の決算状況について

- ・ 事務局から資料1に基づき説明を行う。
- ・ 委員からの質疑等はなし。

(3) 令和5年度清川村簡易水道事業の概要について

- ・ 事務局から資料2に基づき説明を行う。
- ・ 委員からの質疑等は次のとおり。

(委 員)

- ・ 公営企業会計の導入により会計方式が変わり仕事量が増えると思うが、職員の配置など仕事量と人員配置のバランスは大丈夫か。

(事務局)

- ・ 担当課としては、公営企業会計のスタート時が大事になるので、人事担当と協議していきたい。

(委 員)

- ・ 上下水道は生活インフラの大事な場所なので、公営企業会計への移行時に職員の負担とならないよう、職員の働き方も加味して人事を行ってほしいと思う。

(委員)

- ・ 継続的に実施してきた清水ヶ丘地区の配水管更新工事の進捗状況はどうか。予定どおり進んでいるのか。

(事務局)

- ・ 進捗については、当初は令和元年度から5年間で施工する予定で工事を進めてきたが、若干の遅れが生じており、令和7年度までの工期のなかで施工したいと考えています。

また、工事については、清水ヶ丘団地の中央部から下部までは給水管の付替え工事も含めて施工は完了しており、今後は中央部から上部が残っているので、令和7年度までの3年間で道路の舗装工事も含めて施工してまいります。

(委員)

- ・ 2年延びるということは予算も増えるのではないか。

(事務局)

- ・ 元々の計画では1億円掛けて5年間で清水ヶ丘地区の給水管の布設替えは可能であると説明してきたと思いますが、詳細な設計委託をしたところ、5年間では無理であるとともに予算も1億8千万円程度掛かることが分かりました。

発注時には施工内容も工夫し、極力安価に施工できるよう計画の見直しも図っています。

(委員)

- ・ 既に施工がスタートしてしまっている工事なので、止めることはできないが、あと2年間は、住民の方に迷惑が掛からないよう、また、安心して通行できるよう安全に十分注意して進めてほしい。

(事務局)

- ・ 水道工事に限ったことではありませんが、工事施工にあたり住民の方の通行の支障とならないようパトロール等も実施しながら随時対応してまいります。

また、限りある予算のなかで無駄のないよう精査しながら工事を進めてまいります。

(4) 水道使用料の改定について

- ・ 事務局から資料3に基づき説明を行う。
- ・ 委員からの質疑等は次のとおり。

(委員)

- ・ 説明いただいたとおり料金改定は仕方がないが、昨年度のように物価高騰対策の補助金等が国や県からもらえる場合は、上下水道料金に重点的に充てていただけると住民にとってはありがたい。

(事務局)

- ・ 今後、国等の財政支援があれば積極的に活用してまいりたいと考えます。また、減免等を実施する場合は皆さまにご説明いたします。

(委 員)

- ・ 現在の料金体系は、一般家庭も営業用も統一単価となっているが、今後料金体系を分ける考えはあるか。

(事務局)

- ・ 以前から村の料金体系は統一単価としていたが、今後の経営状況を見極めながら受益者負担の原則も含め、検討してまいりたい。

(委 員)

- ・ 将来的に料金体系を分けることも検討する必要があるのではないか。

(事務局)

- ・ 令和6年度から公営企業会計へ移行し、経営状況が明確になった段階で経営戦略の見直しも必要であると認識しているので、まずは、公営企業会計へ移行し、経営状況を見極めながら適正な料金設定を検討してまいりたい。

(5) その他

(委 員)

- ・ 本日伺った内容については、住民の皆さんにも広報・周知をお願いしたい。
- ・ 今後、人口減少が進むと思うが、担当課が推計する人口と村の総合計画で目標とする人口とは相違があると思う。現実をみたときに担当課が推計する人口と村が目標とする総合計画などの将来人口とは相違があっても仕方がない考える。経営戦略などで採用する人口推計は現実的な数値を採用してほしい。

(事務局)

- ・ 本日の案件はしっかりと広報してまいります。
- ・ 経営戦略上の人口推計については、実際に則した推計値を採用していきたいと考えます。

4 閉 会

【副会長あいさつ】